

【 2020年度 高大連携委員会 事業報告 】

高大連携委員会

委員長校 : 関西国際大学

副委員長校: 神戸松蔭女子学院大学

委員校: 関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、
神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、
兵庫医療大学、兵庫県立大学 計19校

<目的>

「ひょうご高校大学コンソーシアム」を継続的に開催していくことにより、高校と大学の接続をめぐる多くの課題について意見交換を行い、県下の高大連携の推進を目指すとともに、地域の活性化、県内の若者人口増加のための連携事業の一環としての大学進学者の県内残留に寄与する。

<内容>

「これからの時代に求められる人材を育成するための高大接続の在り方」をテーマに、加盟大学の高大連携担当者と県下の高等学校、県教育委員会で、率直な意見交換と相互理解を深める場を継続的に設けるとともに、地域の活性化、県内の若者人口増加のための連携事業の一環として高校生に対して兵庫県下の大学等のPRを継続的に行い、県内大学進学率の向上を図る。

<期待される効果>

●高大連携事業（ひょうご高校大学コンソーシアムの開催）

兵庫県立高等学校と設置したひょうご高校大学コンソーシアムを継続的に開催していくことにより、高大連携をめぐる多くの課題について意見交換を行うことができ、県下の高大連携についての推進がより期待される。

●高大連携事業（兵庫県下の大学等のPR）

高校生に対して、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟の兵庫県内大学等のPRを行い、県内大学進学率の向上を図ることで、大学進学者の県内残留に寄与することが期待される。

実施プログラム名称		予算額
①	高大連携事業（ひょうご高校大学コンソーシアムの開催と兵庫県下の大学等のPR）	100,000円

【2020年度 高大連携委員会 事業報告①】

課題	大学進学者の県内残留と円滑な高大接続			
達成目標	県内大学等の情報提供を受けた学生数:200名(2021年度までののべ数)			
課題を解決する 取組概要	高大連携事業(ひょうご高校大学コンソーシアム) 兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換会(進路指導協議会)や県内各地での合同説明会等の開催や県内大学の情報提供などを通じて、県内大学進学率の向上を図る。			
活動指標	ひょうご高校大学コンソーシアム意見交換会の年1回以上の開催 合同説明会の開催等を通じて県内大学等の情報提供の実施:3回以上(2019年度以降)			
内容 (計画・ 結果)	地域の活性化、県内の若者人口増加のための連携事業の一環として、大学進学者の県内残留と円滑な高大接続を行うべく、例年実施している「ひょうご高校大学コンソーシアム」をオンラインにて開催した。「コロナ禍における学びと教育現場の対応について」をテーマに、「何を学ぶか」に視点を置いた高大間での情報交換の場づくりを行った。 また、兵庫県内大学の魅力をPRする方法として、大学コンソーシアムHP(まなび発見map、オープンキャンパス情報、大学祭カレンダー)を通じて県内大学等の情報提供を行った。			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	100,000円	100,770円	-770円	
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	コロナ禍の中、「ひょうご高校大学コンソーシアム」の開催については、時期を含めて難しい状況ではあったが、高大連携委員会での審議も経て、高校・大学関係者を集めてオンラインで開催することができた。合わせて、学生募集に活用するための高校・大学関係者対象のアンケートも計画通りに実施した。大学コンソーシアムHPにおける県内大学等の情報提供も当初計画通り進行することができたため、当初計画は達成し、本プログラムは継続しても良いと考える。			
自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	・新型コロナ影響で事業の実施がままならないが、ひょうご高校大学コンソーシアムの継続開催をお願いしたい。 ・「何を学ぶか？」に視点を置いた高大間での情報交換の場づくりをおこない継続的な活動を期待する。			